俳句

中村石秋（なかむらせきしゅう）

下関市

（1923～2014）

【著作】

句集『風速計』（昭和39・其桃発行所）
『明日の俳句』〔石原八束他共著〕（昭和40・秋発行所）
句集『新樹風』（平成28・現代俳句協会）

中村石秋（本名清治）は、大正十二年（一九二三）鹿児島県指宿市に生まれる。父は廻船問屋を営み、鹿児島と指宿の生活物資を運ぶ仕事をしていた。山も海も身近にある自然豊かな生活環境により、小動物好きの鋭敏な詩的感覚が培われたのであろう。

その後、長崎高商（現長崎大学）に進むと、校内の「緑風会」に入り、当時は俳号「赤秋」と称し俳句活動を始めた。四年先輩に森澄雄氏がいた。

昭和十八年に入隊、終戦を満州で迎えてシベリアに送られ、抑留生活を送る。

昭和二十二年に復員、大洋漁業に復職。昭和二十六年職場の句会に入り、当時、句会を指導していた西尾桃支と出会い「其桃」に入会した。昭和三十三年に「其桃」年間賞を受賞。その後、『其桃』編集に参画、辛島睦子、石井康久等と中心的な役割を果す。石原八束、金子兜太の講演も墨直し大会の時にあった。

昭和三十九年に句集『風速計』を発刊。西尾桃支、石原八束の二人の序文もある。その後、東京へ転勤となり、「秋」の句会で俳句活動を続ける。

昭和五十三年（一九七八）に「其桃」主宰西尾桃支が逝去、子息の西尾豊（医師）が主宰を継承する。その間、「其桃」と「秋」両方で俳句活動を続ける。

昭和六十二年に下関へ帰り、「其桃」で本格的に俳句活動を再開し、平成元年（一九八九）、西尾豊より継承して、「其桃」主宰に就任する。

平成七年、山口県現代俳句協会副会長となり、平成十三年には山口県俳句作家協会会長に就任し、亡くなるまでそれぞれの役職を務め、山口県の俳句界のために尽力した。その間、五年毎に発刊する合同句集『桃影』も五回発刊した。

平成二十五年（二〇一三）には、文部科学大臣表彰の「地域文化功労賞」を受賞。「其桃」主宰として二十五年間、俳誌『其桃』を発行し続け、山口県の俳句界、地域文化の発展に尽力して、平成二十六年（二〇一四）五月十九日に逝去した。

その後、平成二十八年に、遺句集『新樹風』が発刊された。

（文・池田尚文）

「地域文化功労賞」受賞時

色紙・句集